



防災意識啓発の 考えは

石崎 誠子議員

ハンドブックを活用してほしい

市長



▲市初の「防災ハンドブック」活用で事前の備えを

問 防災ハンドブックは、どのような視点で作られているか。

答 風水害と地震それぞれの備え、各家庭でのマイ・タイムラインの作成、避難生活での必要な知識や注意点、「たすかるバッグ」やローリングストックによる備え、避難場所や避難ルートの確認などについて理解を深める内容となっている。

問 市内全域が2分割、3分割、6分割されており、活用するには分りにくい。市民から聞いていたが、新ハザードマップはどうなっているのか。

答 災害の危険度が目で分かるよう市内全域を1枚にまとめ、危険度の色分けも見やすくなるよう工夫した。想定外となることを防ぐため、百年に一度と言われる規模だけでなく、千年に一度という想定上最大規模も示し

ている。

問 防災意識の啓発として、市役所南館の情報コーナーに防災用品が展示されているが、防災ハンドブックの内容も含め防災ギャラリーとして展示を充実させては。

答 避難所用テントや「たすかるバッグ」等の内容に更新していきたい。

問 防災意識の啓発について市長の考えは。

答 行政のみでは全ての市民の命を守ることはできない。いざという時は自らの命、家族の命、地域の命を守るための行動をしてみたい。
そういった啓発、教育、意識向上のために、市の新たな防災ハンドブックを活用して、改めて、家族で防災について考えてほしい。

問 旧ハザードマップは、

う想定上最大規模も示し

問 コロナによって学校の防災教育はどう変わったのか。また、今後どのように防災について継続して学んでいくのか。

答 避難訓練等で密を避け、場合によっては分散避難をするなど、非常時であっても行動に気をつけるよう指導している。

災害時の新型コロナウイルス対応を含めた防災教育については、今までに経験のない事であり、今後、内容や方法を工夫していく必要がある。